

編集後記

大分県地方史が発足して以来、早や十周年を迎えた。「三号雑誌」ということばもあるが、本誌はよくその困難を突破し、着々その実績を重ね、本号にて三十五号という雑誌を出し、地方史研究誌としては全国的にも珍らしく堂々、力強い歩みを続けて来た。省みると、今日の偉大なる歩みの背後には会長岩崎貢氏は申上げるまでもないが渡辺澄夫委員長、立川輝信常任委員を始め各常任委員始め地方委員諸氏、及び、全会員の物心共になる献身的御協力のためのものであると信ずる。

この雑誌によつて切り開いて来た大分県の歴史文化の開明は、一は大分県史料の編さんと平行し、その史料の解説普及を兼ね、幾多の業績をあげたが、ことに毎日新聞に連載し、単行本として同社より出版した「大分県の歴史と文化」は、その史実の分析と、内容の高さを堅持しつつ、極めて平易な叙述によつて編集された点、当該出版書としては全く画期的な企であったといつても過言ではない。

このような意味に於て、本年その十周年を迎えるに当り、常任委員会としては度々の会合を開き、この十一月二十二日定期総会と合せ、記念式典を挙げることにしている。試みにその行事を記すと左の如くなつてゐる。

日時 昭和三十九年十一月二十二日(日) 午前一〇時半
場所 大分市荷揚町 林業会館二階
次第 一〇・三〇 総会 会食
一三・三〇 十周年記念式

一四・〇〇〜一六・〇〇 シンポジウム

「大分市を中心とした歴史と文化」

司会 高山虔三、富来 隆
1、原 始 時代 賀 川 光 夫
2、国 府 時 代 兼子俊一 中野幡能
3、古国府、高国府、荷揚城 渡 辺 澄 夫
以上の如くなつてゐる。

なお、本号には、染矢多喜夫氏、赤峰崇仁氏の御論稿を頂いたが何れも未開拓の分野であり、ことに真宗教団の研究は、従来北陸地方の研究が多く、最近、中国地方の研究が行われているにすぎない学界状況であるだけに、今後の研究には期してまつべきものがある。両氏に厚く感謝の意を表します。(中野記)

昭和三十九年十一月五日 印刷
昭和三十九年十一月十日 発行
会費 年五〇〇円

編集兼 渡 辺 澄 夫
発行人 代表者 渡 辺 澄 夫
印刷所 高 井 久 雄
大分市上野
印刷所 三恵印刷株式会社
雲話②三七七五・五六六五番
大分市駄ノ原 大分大学
学芸学部国史研究室内
大分県地方史研究会
発行所 大分県地方史研究会
(振替下関五二九四番)